

建築教育ニュース

1989, 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 挨拶 会長 加曾利 政 男 1
2. 昭和63年度事業および会計（決算）報告 事務局 2
3. 平成元年度事業計画・会計（予算）および役員名簿 事務局 4
4. 平成元年度総会・研究協議会報告 島田工高 平 野 和 成 7
5. 夏期建築「CAD」の研究協議会に参加して 鶴岡工高 後 藤 武 8
6. 製図分科会報告 主査 田無工高 赤 地 龍 馬 9
7. 構造分科会報告 主査 市川工高 佐 藤 哲 20
8. 計画分科会報告 主査 小田原城北工高 大 庭 孝 雄 24
9. 施工分科会報告 主査 向の岡工高 山 崎 敏 弘 26
10. 製図コンクール運営委員会報告 委員長 田無工高 赤 地 龍 馬 29
11. ニュース 32

あとがき

1. 挨拶

会長 東京都立小石川工業高等学校長 加曾利 政 男

40年の歴史と伝統のある本会会長にご推薦を受け、その責任の重大さを痛感致しております。もとより浅学非才である私の任ではありませんが、お引き受けした以上は微力ではありますが全力をあげ、本会の研修活動の一層の推進に努力致したいと考えておりますので、会員の皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

お蔭様で、平成元年度東日本建築教育研究会の総会並び研究協議会は、静岡県立島田工業高等学校を中心とした静岡県のご尽力により6月9日・10日の両日にわたり、眺望絶景な地に会場を設定していただき盛会のうちに充実した大会を持てましたことを、衷心よりお礼申し上げます。

さて、時を同じく新学習指導要領が告示され、また4月には第14期中央教育審議会が再開され、まさに教育改革元年の感を深める時代になりました。我々教育現場をあずかる者として今後の研修の重要性がますます大きくなってきました。

建築の教育に於いても情報化が高まり、先端技術の導入や多様化した生徒の個性をいかした指導方法を取りいれたり、時代に対応しなければならぬ努力をしています。この時期に先般、全国工業高等学校長協会創立70周年式典記念行事として行われた「生徒研究成果発表大会」の最優秀賞・優秀賞の中に建築科関係作品が入っていたことは、大変喜ばしいことです。これもひとえに日ごろの先生方の指導の賜物と思っています。言うまでもなく建築物は人間生活を営む際の基盤であり、生活をエンジョイする場であり、心の休まる空間です。この設計や製作の学習をすることは、今日言われている心の教育、豊かな心を持つ教育にもつながります。毎日毎日の指導のなかに情操教育も行われているわけです。まさに今日求められている理想的な教育を実践しているのでその責務は重く、大きなものがあります。

目を世界に向けた時、教育問題は万国共通な問題があるようです。過日、フィンランド国会議員の文教委員19名が本校に見学に来ましたとき、質問された内容は、生涯教育のこと、職業高等学校卒業後の進路問題、資格取得のこと、学校と地域社会との関連等全く我々が今日検討し、実践しつつある問題を鋭く追求された感じがしましたが、これは自国で問われている問題であり、日本の現状を知り参考にしたいとのことでした。

このような体験をすると、世界は1つの感をますます強められると同時に国際理解教育の必要性を感じました。

終わりに、本会会員の諸先生の一層のご発展、ご活躍をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

昭和63年度事業報告

1. 総会・研究協議会

期 日：昭和63年6月10日（金）～11日（土）

会 場：埼玉県産業文化センター（大宮市「ソニックシティ」）TEL 0486-47-4111

1) 総 会 …………… 第1日（6月10日）

2) 研究協議会（分科会）…………… 第1日（6月10日）

ア) 製図分科会：建築製図の学習指導について

（製図教育とCADの取扱について）

イ) 計画分科会：「建築計画」教科書（第1章～第4章）の内容検討

ウ) 構造分科会：木構造の学習指導について（枠組壁工法について）

エ) 施工分科会：建築施工の学習指導について

（夏期施工実習研究協議会について）

3) 研究協議会（全体会）…………… 第2日（6月11日）

研究発表：CAIによる建築設計の実践と効果 熊谷工 中谷 高久

研究発表：「木造実習」二階建住宅の実践 越生高 稲本 悟

和田 一夫

4) 研究視察 …………… 第2日（6月11日）

「盆栽村」

2. 夏期講習会

内 容：建築施工実習の実践指導について

期 日：昭和63年8月4日（木）～6日（土）

会 場：東京工業高等学校 赤倉研修所（信越本線 妙高高原駅 下車）

3. 常任理事会・委員会等（年5～7回）

1) 常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2) 主 査 会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3) 各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名

4) 教材委員会：委員長，副会長，委員若干名

5) 製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6) 工業標準テスト問題作成委員：会長，委員4名（田無，鶴見，藤沢，熊谷）

7) 編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

4. 刊行物 …………… 建築教育ニュース1988年号（11月発行予定）

5. 製図コンクール（第7回） 63年11月

平成元年度 事業計画

1. 総会・研究協議会

期 日：平成元年6月9日（金）～10日（土）

会 場：焼津観光ホテル「松風閣」 TEL 0546-28-3131

- 1) 総 会 …………… 第1日（6月9日）
- 2) 研究協議会（分科会）…………… 第1日（6月9日）
 - ア) 製図分科会：設計製図（設計課題）の学習指導について
 - イ) 計画分科会：教科書（建築計画）の検討と法規の手引書について
 - ウ) 構造分科会：木構造の学習指導について
 - エ) 施工分科会：施工実習の項目と実習報告書について
- 3) 研究協議会（全体会）…………… 第2日（6月10日）

研究発表1：赤外線映像装置による温度測定と外壁診断
修善寺工 瀬戸 翔司

研究発表2：関市立体地図の製作ならびに提示用CAIの開発
関商工 恩田 一光
- 4) 研究視察 …………… 第2日（6月10日）

「登呂遺跡・同博物館及び芹沢銈介美術館」（静岡市）

2. 夏期講習会

内 容：設計製図の指導について〔CAD（初級コース）について〕

期 日：平成元年7月25日（火）、26日（水）

会 場：埼玉県立大宮工業高等学校

3. 常任理事会・委員会等（年5～7回）

- 1) 常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名
- 2) 主 査 会：会長，副会長，分科会主査，事務局長
- 3) 各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名
- 4) 教材委員会：委員長，副会長，委員若干名
- 5) 製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名
- 6) 工業標準テスト問題作成委員：会長，委員4名（藤沢，熊谷，葛西，東工大附工）
- 7) 編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

4. 刊行物 …………… 建築教育ニュース1989年号（11月発行予定）

5. 製図コンクール（第8回） 平成元年11月

平成元年度 予 算

平成元年 6 月 9 日

1. 収 入 額

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	720,000	144校分
雑 収 入	20,763	助成金, 銀行利子
印 税	70,000	基礎問題, 図集等
賛 助 金 補 助	100,000	
繰 越 金	193,237	昭和63年度繰越金
合 計	1,104,000	

2. 支 出 額

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	820,000	
総 会 費	320,000	会場校補助10万円, 本部経費
資 料 費	160,000	総会資料, ニュース等印刷費
講 習 会 補 助	60,000	夏期講習会補助等
出 張 補 助 費	100,000	西日本, 北海道出張補助
分 科 会 費	180,000	4分科会 各4万5千円
2) 運 営 費	265,000	
役 員 会 議 費	30,000	理事会, 主査会等
通 信 費	145,000	総会通知, ニュース発送通信費
雑 費	25,000	事務用品代
事 務 費	15,000	事務局手当
準 備 費	50,000	名簿作成積立金(合計15万円)
3) 予 備 費	19,000	
4) 合 計	1,104,000	

平成元年度 役員名簿

1. 会長	東京都立小石川工業高等学校	校長 加曾利政 男	勉
2. 副会長	東京都立多摩工業高等学校	教頭 古山谷室 滋	
	神奈川県立神奈川工業高等学校	教諭 佐藤賢 吉	
3. 事務局長	東京都立墨田工業高等学校	教諭 松田宮崎 靖	
4. 会計監査	東京都立墨田工業高等学校	教諭 間田 勉 (副会長)	
5. 常任理事	埼玉県立春日工業高等学校	古谷 賢吉 (副会長)	
	加曾利政 男 (会長)	古藤 賢孝 (計画主査)	
	山室地龍 滋 (副会長)	大山 裕弘 (施工主査)	
	赤佐藤 昌之 (東工大附工)	土松 貞二 (葛西工)	
	古賀田 幹郎 (東京工)	大大 沢二彦 (関東第一高)	
	小野橋 義治 (市川工)		
6. 各部会委員			
1) 製図部会：主査	赤地龍馬 (田無工)		
	古賀佐島勝治 (市川工)	土田 裕康 (蔵前工)	
	福高橋本 重洋 (大宮工)	遠藤 井田 健一 (神奈川工)	
	松依次 孝雄 (小田原城北工)	酒角 田勝男 (神奈川工)	
2) 計画部会：主査	大門馬正俊 (東工大附工)		
	高野中英 良 (桐生工)	佐大本伊藤 賢俊 (墨田工)	
	岩崎 敏 (市川工)	藤間田藤 彦一 (川越工)	
3) 構造部会：主査	原間田幸信 (東京工)		
	池田斎辺 忠崎 (向の岡工)	松井 貞二 (葛西工)	
	山室野幹二郎 (東京工)	遠佐福筒 井 幸功 (川越工)	
4) 施工部会：主査	大村沢上竹久 (藤沢工)	佐藤住井 英喜男 (鶴見工定)	
	塩山美雪丸 (東京工)		
	内藤山室 滋 (神奈川工定)	土屋 健 (甲府工)	
7. 教材委員会：委員	佐藤賢龍 吉 (副会長)	三浦 陽助 (横須賀市工)	
	赤佐藤 昌之 (東工大附工)	奥田 幸司 (小石川工)	
8. 編集委員会：委員	池田尾太郎 正治 (葛西工)	高田 橋島 宏 (田無工)	
	委員長・赤地龍馬 (田無工)	中尾 太郎 治 (葛西工)	
9. 製図コンクール運営委員会	遠藤 勇 (東京工)	松田 敏 (事務局長)	
	大古酒塩取高野 俊彦 (関東第一高)	大山 孝敏 雄 (計画主査)	
	古賀田 健一 (東工大附工)	山崎 敏弘 (施工主査)	
	酒田 泰一 (関東第一高)		
	塩取 真一 (蔵前工)	遠藤 勇 (東京工)	
	高野 治章 (市川工)	大間 俊彦 (関東第一高)	
	土田 裕康 (蔵前工)	筒井 喜男 (鶴見工定)	
		角田 勝男 (神奈川工)	
		福松 貞二 (葛西工)	
		松本 重昭 (大宮工)	
		三浦 陽助 (横須賀市工)	
		村上 竹久 (藤沢工)	
		依田 洋次 (川崎市工)	

以上

4. 平成元年度 総会・研究協議会報告

静岡県立島田工業高等学校 平野和成

日時 平成元年6月9日(金)～10日(土) 参加者：205名

会場 静岡県焼津市 焼津観光ホテル「松風閣」

日程 第1日 6月9日(金)

(1)開会式

- (1)開会のことば (2)静岡大会実行委員長あいさつ (3)会長あいさつ
- (4)静岡県教育委員会あいさつ (5)来賓祝辞

(2)総会議事

- (1)昭和63年度事業報告および決算報告 (2)会計監査報告 (3)役員改選
- (4)平成元年度事業計画および予算案審議 (5)創立40周年記念事業について
- (6)その他

(3)研究協議会(分科会)議題

- ア計画分科会：「教科書(建築計画)の検討と法規の手引書について」
- イ構造分科会：「木構造の学習指導について」
- ウ施工分科会：「施工実習の項目と実習報告書について」
- エ製図分科会：「設計製図(設計課題)の学習指導について」

(4)研究協議会(全体会)

- (1)座長選出 (2)分科会報告

(5)機器展示

(6)教育懇談会

第2日 6月10日(土)

(1)研究協議会(全体会)

- (1)座長選出
- (2)研究発表
 - 1.赤外線映像装置による温度測定と外壁診断 瀬戸翔司(修善寺工)
 - 2.関市立体地図の製作ならびに提示用CAIの開発 恩田一光(関商工)

(2)講評

(3)謝辞

(4)次期開催県(神奈川)代表あいさつ

(5)閉会のあいさつ

(6)研究視察 登呂遺跡・同博物館および芹沢銈介美術館

5. 夏期建築「CAD」の研究協議会に参加して

山形県立鶴岡工業高等学校 実習講師 後 藤 武

今年も夏休みの始まりと同時に熱苦しく、恒例の東日本建築教育研究会の真夏の研修が、大宮工業高校において、7月25日～26日の2日間にわたって行なわれ、今年は（パソコン）CADシステム操作の講習並びに討論会があり、実年に鞭打っての参加となりました。

第1日目の研究協議は「CADの概要」、機器の扱い方より始まり、平面図入力（壁、建具、器具）更に（床仕上、名称、寸法線）等一つ一つ丁寧に御指導下され、且つ立体（立面）図入力（基準値、外建具、屋根）等一通り入力し、16時30分で第1日目終了し、渴いた喉をぐっと堪えて玄関前での記念写真（良く写ったかどうかはカメラ任せ）。

後の懇談会は、大宮駅前「そごうスカイビル」にて、渴き堪えた喉を潤したビールは、又格別のうまさであり、明日への活力として生き生きと蘇りました。

中には、かつてお見受けした先輩の方や、新しく覚えた顔、顔、それぞれ有意義に語らい、なかなか盛大裡のもとに1日目は終了しました。

2日目は、立体図のアンクル決定へと進み、注文に応じたいろいろな角度から眺めたベースを自在に形造れ、更に着色もできた。まさに現代パソコン時代を思わせ、実に素晴らしいことと思いました。ただ、遺憾に思われることは、CADの機種によってコマンドや操作の違いで、自校に帰って復習しようにも、生徒に役立たせるにも役立たないことです。自分としては、各種機能を学べることで、幅広く勉強できることは有難いと思いました。

今一つ欲を言えば、各校の機種を調査の上、該当機種を揃えて頂ければ、もっと深く研修することができるし、さらに自校での対応もスムーズにできるのではなからうかと思いました。今後の研修には、今少しの気くばりをお願いしたいと思います。

最後の討論会では「パソコンを教育にどのように生かせるか」とのテーマで進められましたが、コンピュータの知識はあまり知らない、図面を読めればよい、また、コンピュータには人間にできないことをやる能力がある、その能力を引き出すように使いこなせるように、その道具だと思わせる様な教育、道具として融け込んでいけるように、と言っておられました。実際面ではそこ迄がむずかしいと思えます。

2日間の短期研修ではありましたが、多くの人々との係わりを持ちながら、自分なりに多くを学びとることができ、以後何かの形で生徒に還元しなければと思いました。

会場校の諸先生方、御指導に当られた武藤工業、石崎・友重様、並びに清水建設の今川様の実践教育等、我々の教育研修に、全面的に御協力・御指導下され、感謝を申し上げますとともに改めて（コンピュータ、パソコン）の必要性を感じとった次第です。

工業教育の益々の発展と、各先生方並びに関係各位の御健勝を祈念し、拙ない文面ながら手記といたします。

6. 製図分科会報告

東京都立田無工業高等学校 赤地 龍馬

① 分科会の動向

昭和63年10月から平成元年9月までの、1年間の製図分科会の動向について報告します。

- 第7回（昭和63年度）製図コンクールの運営に協力（昭和63年2月～12月）。
- 設計製図「設計課題」についてのアンケート実施（平成元年5月）。
- 第39回総会（静岡大会）・研究協議会（分科会）（平成元年6月9・10日）。
- 平成元年度 夏期研究協議会「CADの実技演習と建設会社での利用状況」の運営に全面協力（会場 埼玉県立大宮工業高校）（平成元年7月25・26日）。
- 夏期研究協議会において、協議会内容・協議会参加者各校におけるCADの導入状況・研究会および製図分科会への要望などのアンケート実施。

② 第39回総会（静岡大会）・研究協議会（製図分科会参加者 51名）

議題 設計製図「設計課題」についてのアンケート結果について

報告者 神奈川工業高等学校 教諭 酒井 健一

アンケート主旨 今日、工業高校を取りまく社会の変化は目ざましいものがあり、種々の問題が提起されております。特に、入学して来る生徒の多様化に対応する教育課程や教育内容の研究が急がれます。

設計製図は建築教育の中で大きな比重を占めており、生徒の建築に対する興味・関心を育てたり、個性の伸長を図ったりする大切な科目であります。その効果的な学習指導の研究のためにも、各校における「設計課題」の指導状況についての情報交換を行ないたいと思います。（発送数 120校（全日制のみ）、返送数 81校、回収率 68%）

Q1： 製図の単位数は、何単位ですか。

単位数	0	2	3	4	5	6	7	未記入
1年生	2校	40校	34校	4校	0	0	0	1校
2年生	0	6校	34校	32校	7校	1校	0	1校
3年生	0	0	11校	28校	17校	22校	3校	0

* 選択単位数含まず

製図の合計単位数

単位数	8	9	10	11	12	13	14	15	不明
学校数	8	12	16	18	14	9	2	1	1
(%)	(10)	(15)	(20)	(22.5)	(17.5)	(11.3)	(2.5)	(1.3)	

Q2： 設計製図を実施していますか。

1 年 生

実施している。 16校 (19.8%)	して いない。 65校 (80.2%)
------------------------	------------------------

2 年 生

実 施 し て い る。 64校 (79%)	して いない。 17校 (21%)
---------------------------	----------------------

3 年 生

実 施 し て い る。 81校 (100%)	
----------------------------	--

Q3： 実施している場合、各設計課題のテーマ・構造などは？

設計課題のテーマ (課題の総数)

3 年 生

専用住宅平家	2校
" 2階	18
併用住宅	4
集合住宅	7
テラスハウス	1
セカンドハウス	1
図書館	9
事務所	6
学 校	2
商 店	3
宿泊施設	2
青少年センター	1
ホテル	1
ペンション	1
児童館	2
幼稚園	2
公民館	3
公共建築	2
郷土資料館	1
公衆便所	1
コンペ参加	4
自由課題	5

2 年 生

専用住宅平家	13校
" 2階	46
併用住宅平家	1
2階	2
集合住宅	1
商 店	1
コンペ参加	2

1 年 生

専用住宅平家	14校
" 2階	2

卒業設計 (3年生) — 51

自由課題	45校
集合住宅	2
セカンドハウス	2
図書館	2
併用住宅	1
ペンション	1
専用住宅	1
学 校	1
公民館	1
資料館	1
ホテル	1

内 訳

構造（課題の総数）

	木造	ブロック	RC造	S造	RC, S, SRC	自由	未記入
1年	16	0	0	0	0	0	
2年	61	1	2	2	0	0	
3年	25	0	58	0	8	33	3

Q4・5：課題のテーマ・構造・延べ面積・要求図面などについて

テーマ 住宅設計（平家・2階、専用・併用を含む）2・3年生 — 83

構造	木造	75校	延べ面積	1. 100 m^2 未満	4校
	RC	1		2. 100～150 m^2	52
	S	2		3. 150 m^2 以上	19
	自由	3		4. 自由	3
	その他	0		5. 未記入	5
	未記入	2			

要求図面

図名	数	縮尺・内訳（学校数）	未記入
① 設計主旨・説明	40校		
② 配置図	79	1/50 (5) 1/100 (51) 1/150 (1) 1/200 (16) 1/500 (1) 1/600 (1)	4校
③ 平面図	80	1/50 (19) 1/100 (59)	2
④ 立面図	76	1/50 (5) 1/100 (69)	2
⑤ 断面図	65	1/50 (3) 1/100 (61)	1
⑥ かなばかり図	55	1/20 (48) 1/30 (4) 1/50 (1)	2
⑦ 構造図	32	1/50 (1) 1/100 (29)	2
⑧ 部分詳細図	13	1/20 (11) 1/30 (2) 1/50 (1)	
⑨ 透視図	37	着色 (32) 着色しない (2)	4
⑩ 模型	10		
⑪ その他	15	家具配置・面積表(8)・展開図(3)・開口部詳細図・ 建ぺい率・容積率・仕上表(2)・設備図・ (エスキス段階からの資料をファイルして、主旨 を添付して提出等)	
⑫ Q5を未記入	3		

テーマ 卒業設計（自由課題） 3年生

構 造	木造	0校	延べ面積	1. 1000 m^2 未満	1校
	R C	20		2. 1000～3000 m^2	10
	S R C	3		3. 自由	39
	S	6		4. 未記入	0
	自由	33			
	未記入	2			

要求図面

図 名	数	縮 尺 ・ 内 訳 (学校数)	未記入
① 設計主旨・説明	43校		
② 配置図	46	1/50 (0) 1/100 (9) 1/200 (25) 1/300 (12) 1/500 (14) 1/1000 (1) 自由 (5)	11校
③ 平面図	47	1/50 (2) 1/100 (24) 1/200 (25) 1/300 (2) 1/500 (2) 1/1000 (0) 自由 (3)	11
④ 立面図	47	1/50 (0) 1/100 (25) 1/200 (27) 1/300 (2) 1/500 (2) 1/1000 (0) 自由 (3)	11
⑤ 断面図	43	1/50 (1) 1/100 (23) 1/200 (23) 1/300 (2) 1/500 (2) 1/1000 (0) 自由 (3)	10
⑥ かなばかり図	38	1/20 (21) 1/30 (16) 1/50 (11) 1/100 (0) 1/200 (0) 自由 (0)	10
⑦ 構造図	1	1/200 (0)	
⑧ 部分詳細図	27	1/10 (1) 1/20 (15) 1/30 (8) 1/50 (6) 自由 (1)	8
⑨ 透視図	45	着色 (38) 着色しない (2) 自由 (1)	4
⑩ 模 型	5		
⑪ その他	9	室内スケッチ・面積表(3)・機能図(3)・階段回り詳細図 模型写真・仕上表・展開図・案内図(2)・確認申請 テーマ登録（他に、必要な図はケースバイケースで自 由に入れて良い・表紙のデザインにも工夫している・ 1級建築士程度の所）	
⑫ Q5を未記入	2		

Q 6：設計条件等の特色又は、工夫している事項をご記入下さい。

Q 7：設計課題の指導上の問題点及び工夫している事項、その他ご意見をご記入下さい。

1年生 住宅設計等

岐阜県立可児工高：平家小住宅

夫婦＋幼児1人まで、最少限住宅に近いもの。模型を作る（構造理解が主眼）ため、できるだけ単純な形にすること。①その他〔模型材料の積算〕 製図完成後、模型材料の積算をおこない、構造模型を製作する。積算は製図又は構造の時間を、模型は工業基礎の時間を使う。

宮城県立古川工高：平家建専用住宅

過去の2級建築士（製図）試験の設計条件を参考にした。「計画」の授業で平面図のエスキスを完成させ、チェックし、「製図」で図面化している。2年時には6人程度の作品の模型を製作（縮尺 $=\frac{1}{10}$ ）させ、理解を深めさせるのにはかなり有効である。

小屋伏せ図を理解させるのが難しい。平面図を完成させてから、小屋伏せ図のエスキスを提出させ、「製図」担当者がエスキスのチェックをするが、「構造」と「製図」との関連を密にすれば効果が上がると思われるが、今後の課題である。

2年生 住宅設計等

埼玉県立川越工高：住宅

設計条件等の特色又は、工夫している事項をご記入下さい。

本校では、エスキス帳を購入させている。そして、設計趣旨・説明、配置図、平面図を自由にエスキスさせそれを各先生方が検討し、合格したならば立面図、基礎伏せ図、床伏せ図、断面図、軸組図、小屋伏せ図、矩計図という様の一つ一つが合格しなければ前進させないような形態をとっている。

設計課題を進める上において、高校生の場合、特に小屋伏せ図で悩んでしまうのが現状である。そこで過去の事例を参考資料として配布し、勉強させているが、なかなか思う様に梁等が掛けられず大変時間を労する。よって全体的に時間配分に苦慮している。その為に教師一丸となって授業時間外（朝、昼休み、放課後）等をさいて個々の生徒を指導助言している。

千葉県立市川工高：専用住宅

①その他〔エスキス段階からの資料をファイルして趣旨を添付して提出させている。〕

Q 6. 設計条件等の特色又は、工夫している事項をご記入下さい。

- ・ 2階建では少々難しいようなので平家としている。家族構成を生徒の生活から容易に想像できるよう高校生と中学生を含んだ家族としている。
- ・ 北側道路の20×30(m)のかなり広い(?)敷地を与えている。
- ・ 夏休み前に課題を示し、休業中に略設計を進めさせ、2学期以降、計画・構造面のチェックを行っている。
- ・ 2年次の設計課題は、3年次の積算実習でも利用している。

- ・VTR-16mm映画等を用いて興味が湧くようにしているが、まだまだ不十分なようである。視聴覚教材を充実させたい。
- ・生徒の中に見本とするプランが少なく、ともするとテキストのプランが最後まで強く影響している。課題に取組ませる以前に、簡単な住宅プラン演習をやると効果的かもしれない。
- ・各々、個別にプランチェックを行っている。その課程で、生徒は始めて設計の楽しさを知ることもあるようだが、職員の負担が大きく遅れて提出する生徒への十分な指導が出来なかった。対応する職員数を増やしたい。

3年生 卒業設計

埼玉県立熊谷工高：2階建専用住宅（卒計）

- ・実際に即した形で、建設予定地を提示。
- ・テーマと設計意図について十分考えさせる。
- ・全員の卒業設計作品を、2月に『市民ギャラリー』に展示し、一般市民や専門家より批判を仰ぐ。
- ・上記の件でポスターを200枚業者印刷し、広報に努めている。
- ・図面提出が遅れる生徒の指導が大変である。
- ・透視図が期限の関係でザツになる生徒が出る。
- ・毎年、1月になると夜9時、10時まで学校で製図作業をする生徒が数十名おり、そうならない対策に頭を痛めている。

北海道道立札幌工高：卒業設計（公共的建築）

- ①その他〔模型の場合はバースを必要としないが〕写真の提出（4枚程度）を同時に求める。
- Q 6. 設計条件等の特色又は、工夫している事項をご記入下さい。
- テーマ選定、設計条件（立地・規模等の概略）の確認。
 - 指導教官による分担指導（7～8名）としてエスキースから完成まで、原則として個人設計とするが場合によってはグループ設計（2～3名：図面内容が変る）も可とする。
 - 最後チェックは指導教官と教科担当者による。
 - インキングワーク、ペンシルワーク（トレベ）いずれでも可。
 - テーマ毎にグルーピングをし、その指導教官を中心に制作をすすめる。
 - 生徒の力量によって表現手段を変える。
 - 優秀作品は学会北海道支部コンペに提出する。
 - 10月より卒業設計に入るが前課題のおくれ等から充分なる個人指導等が受けられず時間不足になる生徒もある。

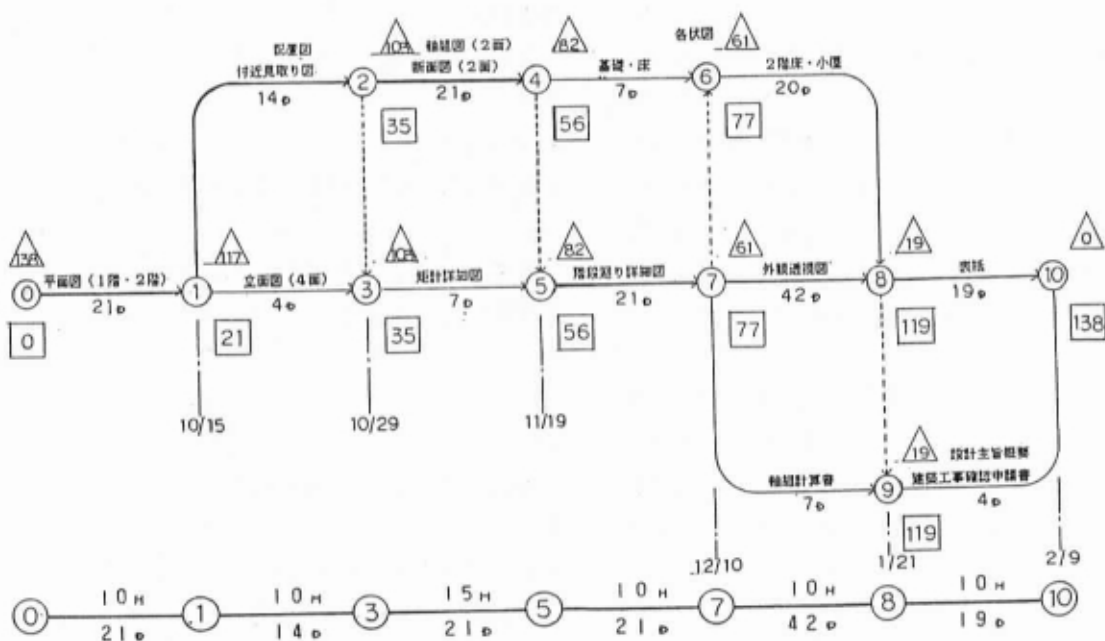
福島県立郡山北工高：卒業設計

設計条件はすべてを自由としているので特がない。

提出を細かくチェックして各図面ごとに提出日を決める自由設計であるが、木造2階建の住宅を設計課題にする生徒が約半数、RC造の各種建築物を設計課題にする生徒が約半数の割合である。

要求図面ごとに簡易ネットワークの例を示し、進み具合をチェックしながら計画的に行う指導をしている。— 木造例1

— 年度 卒業設計 —



注：Q6、Q7については、各校から多数の実践報告がありました。各学年の一部だけを記載いたしました。

③ 平成元年度 夏期研究協議会

平成元年度の夏期研究協議会は、埼玉県立大宮工高校長 逸見敬甫先生、建築科長 松本重昭先生のご理解あるご指導とご協力を賜わり、武藤工業株式会社大宮営業所の後援によって製図分科会が中心となり、実施しました。

1. 内容：CADの実技演習（初心者対象）と建設会社での利用状況

2. 期 日：平成元年7月25日(火)，26日(水) 2日間

3. 会 場：埼玉県立大宮工業高等学校

4. 参加者：43名(定員40名)

5. 時 程：第1日目 7月25日(火)

9:00 ~ 9:20	受付
9:20 ~ 9:30	開講式
9:30 ~ 10:00	講義「CADの概要」 石崎貞平〔武藤工業(株)〕
10:00 ~ 10:10	休憩
	講師 石崎貞平，友重隆介〔武藤工業(株)〕
10:10 ~ 10:30	機器の扱い方
10:30 ~ 12:00	平面図入力〔壁・建具・器具〕
12:00 ~ 12:45	昼食
12:45 ~ 13:00	集合写真
13:00 ~ 14:30	平面図入力〔床仕上げ・名称・寸法線〕
14:30 ~ 14:40	休憩
14:40 ~ 16:30	立体図入力〔基準値・建具・屋根〕
17:00 ~ 18:30	教育懇談会(大宮そごう12階バンケットルーム)

第2日目 7月26日(水)

8:40 ~ 9:00	受付
9:00 ~ 10:30	立体図入力〔アングル決定〕
10:30 ~ 10:40	休憩
10:40 ~ 12:00	プロッター出力〔図面割付〕
12:00 ~ 13:00	昼食
13:00 ~ 14:00	プロッター出力〔質疑応答〕
14:00 ~ 14:10	休憩
14:10 ~ 16:10	討論会「CAD開発・利用の現状」 今川結城〔清水建設(株)〕
16:10 ~ 16:30	閉講式

〔解散〕

④ 夏期研究協議会参加者—アンケート結果 (回答者 34名 回収率 81%)

Q 1 : 担当科目に○印をつけてください

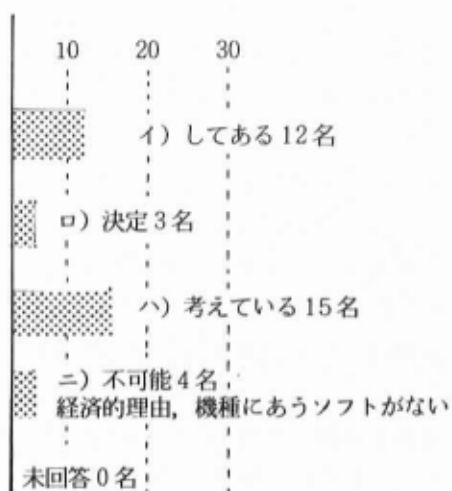


Q 2 : パソコンの経験について

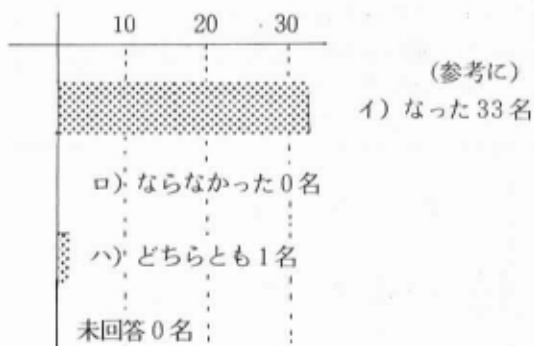
- イ) 今回初めてさわった
- ロ) 他の講習会に参加したことがある
- ハ) 既成のソフトを使用したことがある
- ニ) プログラムが作れる



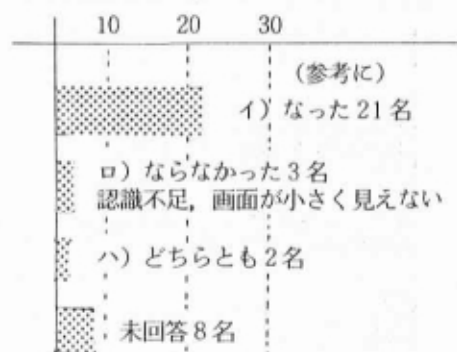
Q 3 : 学校へのCAD導入について



Q 4 : 今回の講習会について



Q 5 : 今回の討論会について



Q : 6 講習会・討論会についての感想

- 討論会は、CADの導入についての意見交換をしたかった。
- 講習会について、訂正の仕方をまずはっきりさせて欲しかった。修正の度にデータ消去・再入力のかくりかえし。
- コンピュータCADと設計(創作)感性との関係において参考になった。
- 富士通の機種を操作した事があるが武藤工業KKさん(NEC)の別の機種も手で操作する事が出来参考になりました。
- 各県内(福島)でも生徒に講習会を開いてもらえればと思います。
- 「CADの教え方」について、もっと知りたかった。
- TVゲームなのか、それとも道具なのか。
- 現場サイドでの具体的内容は実戦的で大変興味深く感じました。
- 清水建設の今川さんの話を実物を見ながら伺うことができ、道具としてコンピュータを利用している事に対して大変参考になりました。
- このような講習会をぜひ続けて下さい。
- もう少し時間がほしかった。
- 実技講習はわかりやすくよかった。
- 大変参考になりました。
- 企業のソフト開発状況、現場の現実を知ることが出来た。内容的にも興味深いものがあった。
- 現場を経験して開発したシステムなので大変に合理的であると思った。
また、今川氏の光輝く目が印象的であった。大変参考になりました。
- 建築の教育現場にCADの必要性を身をもって感じました。今まではパソコンという

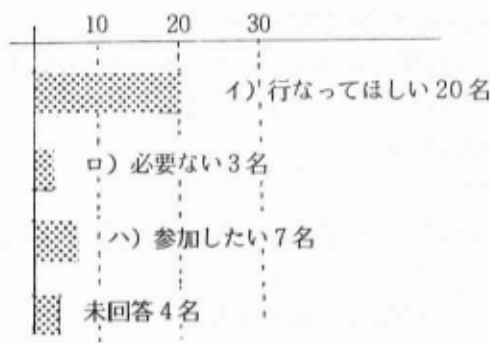
とさけてきた自分ですが、これからは積極的に取り組んでいこうと思った。ありがとうございました。

- 学校教育に関するの討論がもっと欲しかった。
- 講習会で得たものを実際に活用するためにも是非とも学校における設備充実を望みたい。
- CADシステムを現場への導入のデモを見て感心するとともにもう少し簡単に操作できればと思う。
- こんなものかなということがわかった。

Q7： 東日本教養教育研究会に対しての要望

- 毎年お世話になり役立っています。感謝しています。
- 製図教科書の製図例の見直し（現在にあった図面を）
- 今回の企画は、初心者が中心であったためどちらかというとコンピュータに対する認識、理解が低い人が多いようであった。企画者、協力していただいた企業に苦勞が多かったと感ずる。ご苦勞さまでした。
- コンピュータCADにおいて種々の機種があり、機種が異なると操作もそれぞれ異なる。各校ではどんな機種があるのか調査の上各機種1台ずつでもあれば帰校後速やかに生徒の指導に役立つと思うが、大変でしょうか。折角大宮迄来て習っても応用出来ないのが残念に思う。

Q8： 製図分科会で「パースの着色」講習会を考えていますが……



以上、2つのアンケートは、次の製図分科会委員が中心となって、企画・集計・まとめなどを行いました。

1. 設計製図「設計課題」について：高橋義治（市川工高） 酒井健一（神奈川工高）
2. 夏期研究協議会の内容・感想・要望などについて：塩沢 泰（関東第一高校）

7. 構造分科会報告

千葉県立市川工業高等学校 佐藤 哲

昭和63年9月から平成元年8月まで、一年間の構造分科会の活動状況の概略を報告します。

11月14日(月) 昭和63年度第4回構造分科会委員会(東工大附工高)

- 鋼材倶楽部の後援による研究会・講習会の実施について
古谷主査より本研究会と鋼材倶楽部との協力関係のありかたについて次のような説明があった。「鋼材倶楽部は毎年、本研究会のための予算措置を講じ、鉄骨建築についての研究協議会、講演会、見学会などの実施において、印刷費や会場費、講師謝礼、簡単なテキスト等での援助をいただける。」それを受けて、具体的にどのようなことを計画するか話しあった。
日本コンベンションセンター(幕張メッセ)や横浜イベントセンターなどの見学会、講師を呼んで溶接などの講演会などの意見がでたが、結論には達せず、次回また検討することにした。
- パソコンプログラム集(第2集)の編集の取り組みについて
いろいろ話し合ったが、今からはプログラム学習(ステップ学習)に必要なステップに重点を置き、パソコンプログラムは企業に委ねる方向で考えたらどうだろうという意見が多く、今後も継続して検討することにした。
- 平成元年度総会、構造分科会の取り組みについて
(昭和63年度埼玉大会の反省を含めて)

昨年度の埼玉大会の反省を含めて、今年度構造分科会の取り組みについていろいろ話し合ったが、結論は得られず継続して検討することにした。

12月6日(火) 昭和63年度第5回構造分科会委員会(安田学園高)

- 鋼材倶楽部の後援による研究会・講習会の実施について
前回から継続している研究会・講習会の実施についていろいろ検討した結果、日本コンベンションセンター(幕張メッセ)を見学することで決定した。
来年早々見学会を行うことを確認した。
- 建築構造の基礎問題の校正について
編集については各委員が分担したので、校正についても全委員で行なった。

〈平成元年〉

2月3日(金) 日本コンベンションセンター(幕張メッセ)現場見学会

下記の通り見学会を実施した。

- 1) 日時 平成元年2月3日(金) 午後2時30分～
- 2) 参加者 申込40名、欠席4名 参加36名
- 3) 後援 (財)鋼材倶楽部 市場開発部 次長 清水様、係 井上様

4) 見学会の案内送付先 関東、甲信地方の加盟校のすべて

5) 現場見学会の内容

千葉県企業庁の2名の職員から、幕張新都心構想、日本コンベンションセンター建設について約1時間ほど説明があり、その後40分ほど現場見学を行なう。

幕張新都心構想は千葉県の21世紀のための県土づくりの事業の一つで、その核となるのが日本コンベンションセンターである。

日本コンベンションセンターは国際展示場、幕張イベントホール、国際会議場の3棟によって構成されている。

とくにお立ち台(見学場所)から屋根トラスなどが見える国際展示場の巨大な構造物に驚嘆の声があがっていた。

3月10日(月) 昭和63年度第6回構造分科会委員会(東工大附工高)

- 平成元年度製図コンクール運営委員会、委員2名選出(構造分科会より)について

1名の委員は運営委員会の経験があった方がよいのではないかとということで、松井貞二委員(都立葛西工)継続と筒井喜男隆委員(横浜市立鶴見工定)の2名を構造分科会より選出した。

- 平成元年度研究協議会(静岡大会)構造分科会の研究活動について

前回に引き続き検討し、本年度も昨年度に引き続き「木構造の学習指導について」の研究発表を行なうことを決めた。内容については建築基準法の改定にともない「在来軸組工法による3階建木造住宅についての技術内容の研究と新学習指導要領における授業で取り扱う内容や教科書との関連について」ということに決定した。発表者については在来軸組工法による3階建木造住宅に関心をよせられていた筒井委員(鶴見工定)をお願いした。発表資料については、各自が持ちよることを確認した。また、木造3階建の理解を深めるため構造分科会で、東京木材センターの見学会を予定した。

28日(火) 東京木材サービスセンター見学会

3月28日(火) 午後2時より、東京木材サービスセンターの見学会を実施した。日程の都合等で参加者は5名だったが、1時間程の説明をしていただいたのち、現場の見学を行ない、とても有意義な見学ができた。ただ、残念だったのは在来軸組工法による3階建木造住宅は、来年着工の予定で見学できなかった。

4月28日(月) 平成元年度第1回構造分科会委員会(都立多摩工高)

- 昭和63年度構造分科会委員会会計決算報告

古谷主査より、会計決算報告がなされ、承認された、今年度も昨年同様の活動を委員全員で確認した。

○ 東京木材サービスセンター見学会の報告

3月28日(火)に実施した東京木材サービスセンターの見学会について、佐藤委員(市川工高)より報告された。在来軸組工法による3階建ての木造住宅には直接は関係なかったが、木構造を理解するためには有意義な見学会であった。

5月16日(火) 平成元年度第2回構造分科会委員会(安田学園高)

○ 平成元年度研究協議会構造分科会の研究活動について

筒井委員(鶴見工定)より自作の資料についての説明があり、構造分科会としてどのような資料を作成するかを検討した。

6月9日(金)～10日(土) 平成元年度総会・研究協議会(静岡県焼津市「松風閣」)

○ 議題:「木構造の学習指導について」

(在来軸組工法による3階建木造住宅について)

(分科会出席者 38名)

- 研究協議:「在来軸組工法による3階建木造住宅についての技術内容の研究と新学習指導要領における授業で取り扱う内容や教科書との関連について」というテーマで筒井委員(鶴見工高定)の発表が行われた。

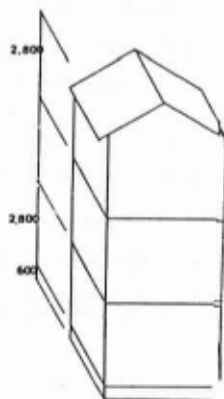
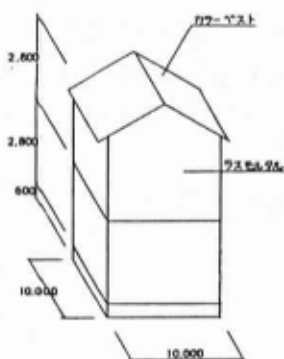
3階建木造住宅の技術内容の研究については

- (1) 改正建築基準法で木構造に関する部分の概要説明
- (2) 木造3階建とした場合の留意点
- (3) 新3階建木造住宅簡易設計基準の内容

という順序で説明があり、特に(2)の木造3階建とした場合の留意点については平面形、仕上等を同じ条件とした計算モデルを作り風圧力と地震力について具体的な数字で比較され、OHPを使った親切な説明は大変参考になったことと思う。

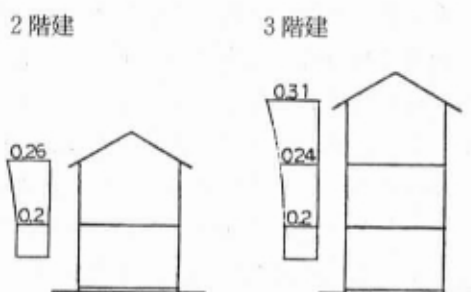
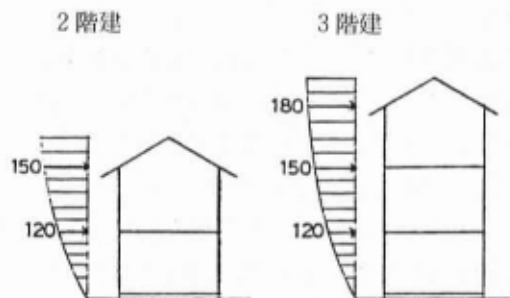
計算モデル

- ・平面形は変えずに階数のみ変えている。
- ・屋根、床、外壁等の仕上は一般的なものとする。



** 風圧力による比較 **

** 地震力による比較 **



	2 階建				3 階建			
	kg/m ² i _q	m ² S	t i _p	t Σp	kg/m ² i _q	m ² S	t i _p	t Σp
3					180	14	3.02	3.02
2	150	14	2.52	2.52	150	28	5.04	8.06
1	120	28	4.03	6.55	120	28	4.03	12.06

	2 階建				3 階建			
	t W _i	t ΣW	t C _i	t Q _i	t W _i	t ΣW	t C _i	t Q _i
3					13.77	13.77	0.31	4.27
2	13.77	13.77	0.26	3.58	22.08	35.85	0.24	8.60
1	22.08	35.85	0.2	7.17	22.08	57.93	0.2	11.59

最後に意見交換と教科書との関連については、参加者ほぼ全員が何らかの形で構造の教科書に入れるべきである。また、製図の教科書にも3階建木造住宅と枠組壁工法の製図例を入れてほしいという要望もあった。

問題点としては3階建木造住宅を具体的に設計していないので生徒に自信をもって指導できない点があり、講習会の機会を作ってもらい、教師側ももっと勉強する必要があるのではないかという建設的な意見もいただいた。

光景がすばらしい焼津観光ホテルでの研究協議大会は、とても意義ある大会であった。

8. 計画分科会報告

県立小田原城北工業高等学校 大庭孝雄

計画分科会では、昭和62年度から取り組んできた、教科書「建築計画」の内容検討を本年度の総会・研究協議会でまとめることができました。

現行の教科書の内容につきまして、委員会で協議検討いたしました様々な問題点を総会・研究協議会に提示いたしまして、広く会員の皆様のご意見を拝聴、協議させていただきました。基本的には、教科書の改訂時に研究会としての改善に関する意見具申となりうる内容にまとめ、より具体性のある改善案を提示していきたいと考えております。

本年度からは、「建築法規」を分科会活動のテーマとして、指導法や教材作成に着手いたしました。教育課程の改訂に伴ない、復活する科目「法規」について、どのように対応すべきか、「法規の手引書」の企画をよりどころに、これから数年をかけて、取りくみます。

ここで、本年度の総会・研究協議会における協議内容のあらましと、本年度から取り組みを開始した「法規の手引書」について、報告いたします。

1. 第39回・総会・研究協議会（静岡大会）の報告

平成元年6月9日（金） 焼津市「松風閣」

〈議題〉 教科書「建築計画」の内容検討（第5章～第7章）

〈協議内容〉

1) 「第5章 集合住宅の計画」について

第7章の住宅地との関連が深いということと、第7章そのものが、頁数の制約から中途半端で物足りない内容となっているので、第5章の冒頭に組み入れることによって、集合住宅の計画とより関連づけて、内容を充実してはどうか。

「設備計画」では、特に、第4章の住宅の設備と関連づけて、系統だった解説が望まれる。また、設備設計（給排水設備）に関する内容については（給水管径、排水管径、し尿浄化槽の設計）は不必要と思われる。

設備設計については、建築設計製図の教科書（第8章①基礎知識）で、取りあげている設計法に関する内容と関連するので、相互に内容を調整することが望ましい。

腐敗タンク式のし尿浄化槽（図5-21）について、詳しく解説されているが、集合住宅の設備としては、合併処理の浄化槽についての解説がより必要になるのではないか。むしろ、腐敗タンク式は、第4章の住宅の計画に組み入れて、汚水の浄化に関する基本的なプロセスを解説してはどうか。

2) 「第6章 事務所の計画」について

オフィスのOA化、さらにはインテリジェント化が進む中で、内容がやや古い箇所があ

り、全体的に内容の刷新が望ましい。具体的に言及すれば、タイプライター、複写器といった古い機器類にもとづいた所要室や平面計画では現状にあわない。掲載されている写真についても、接客コーナーや応接室で、メインとなる事務室の写真がない。設備計画では、OA化やインテリジェント化に関連する事柄についても解説が欲しいなど、執務室間のあり方について、見直す時期にあると思われる。

一方では、教科書に対する基本的な考え方についての意見も出された。第5章に限ることでないが、「計画」の内容がややもするとデータの掲載にとらわれすぎて、本来の目的である、計画の進め方や、よりよい計画法といった内容がうすまり、データブック的な内容になってきているのでは、との問題提起があった。

科目の整理統合が進められ、さらに、工業基礎、工業数理といった新科目の出現にくわえ、コンピューターの導入など、指導内容の精選を余儀なくされてきた今、教科書においても、頁数の制約などから、十分な解説がなされず、図表に頼る傾向が見受けられる。

道路斜線制限や隣地斜線制限に係わる建築基準法の改正については、実教出版より、改訂部分について、別刷りの資料が配布された。

3) 「第7章 住宅地の計画」について

住宅地の開発がどのように進められるのか、さらに、近隣住区の発展していく状況などについての解説が欲しい。また、「近隣住区の計画」については、我が国では現実的ではないので、我が国の実情に合う、より現実的な内容としてはどうか。

前1)項でふれたように、本章を第5章に組み込んだ場合、第7章として、その他の建築物をとりあげ、所要室や平面計画例などを掲載、解説してはどうか。とりあげる建物として、生徒が身近に感ずる学校建築や図書館、病院、劇場などがあげられる。

現行の教科書の内容検討につきましては、昭和62年より検討をはじめまして、今年でまとめることができました。第1章～第7章までの討議内容をふまえまして、今後の教科書改訂に対する要望としてまとめていきたいと思えます。

2. 「建築法規の手引書」について

分科会では、近々、実施される新学習指導要領に備えて、本年度より「建築法規の手引書」の作成を活動の一環として、取りあげ、取り組みはじめました。現在、手引書の目次を作成いたしまして、分科会委員で分担、執筆作業をはじめた所です。企画段階の目次案は、次の通りです。

第1章 建築法規のあらまし、第2章 用語、第3章 建築手続、第4章 一般構造規定、第5章 防火規定、第6章 避難規定、第7章 都市計画区域内の制限、第8章 構造強度、第9章 その他の規定、第10章 関係法規

今後、総会・研究協議会などを機会に、広く会員の皆様方のご意見を拝聴いたしまして、より充実した内容となりますよう努力していきたいと存じます。今後共、ご協力いただきたくお願い申し上げます。

9、施工分科会報告

神奈川県立向の岡工業高校 山崎敏弘

昭和63年度施工分科会の活動内容は、委員会の開催7回、そして会員多数の参加を得て実施しました長野県赤倉における「夏期施工実習研究協議会」等々であり、その報告は第39回静岡大会の総会資料（1，6，9 資料№25参照）に詳しく掲載しました。

今回の報告は総会の研究協議会で討議した内容と、委員会活動の一環として施設見学をした内容をお知らせします。

1. 施工分科会研究協議会の報告

1) 司会：大沢委員，報告者：三浦・村上・山崎委員，出席者27名，所要時間80分
施工分科会資料№25によって、昭和63年度分科会の活動報告と研究議題の設定経過の説明、そして各報告者から資料の説明をしたあと討議に入る。

2) 議題：建築施工の学習指導について、「施工実習の項目と作業内容の実習報告書」

議題の設定経過：会員の方から、「施工実習の授業のあと、生徒に報告書（レポート課題）を提出させたいが、適当な参考例がなくその作成に苦慮している。委員会で検討して欲しい」との要望があった。

実習報告書の作成に当たっての基本方針：次のような考え方で研究を進めた。

- 実習項目・作業内容は、準教科書「建築実習2・三訂版」に沿ったものとする。
- 実習項目・作業内容は、学校現場の実態を考え実施可能な範囲とする。
- 報告書の内容は、実習授業終了後、放課後や休み時間を利用し、一週間後までに提出できる程度の課題の内容とする。
- 報告書は、実習内容の目的を総合的に理解できるよう、次のことを配慮する。
 - ・実習の目的
 - ・使用機器、工具、材料の名称
 - ・実習作業について、作業順序、結果、検査等を記述や図示で解答できるようにする。
 - ・感想
 - ・検印欄
- 報告書は、整理しやすいように、実習作業内容ごとにB4版1枚とし、B5ファイルで綴られるようにする。

3) 今回の資料には、13項目の実習内容の報告書例を掲載した。そのうち、実習27部材の墨付、実習28原寸図、実習40加工・組立、の3項目について説明をしました。

出席された先生方からの、ご意見や要望を伺いましたので要約して記載します。

- すでに、このような形式・内容の報告書を実施したことがある。しかし、報告書の記載内容が同じであつたりで、効果が期待できないと思った。そこで、生徒個々に自由に書かせる記述式の内容に変更した。1年生はとまどったが再提出させながら指導した結果、2～3年生になると良い報告書内容になってきた。
- 生徒の実態（記述的能力など）を考えると、このような形式・内容の報告書例は一つのスタイルとして参考になる。
- 施工実習は、体験を通してその場で理解し覚えることが大切である、そのため、今ま

で報告書の提出をさせていなかった。しかし、この研究会で、最後のまとめとして報告書を提出させる必要があると思い、非常に参考になった。

- この報告書例は生徒の実態に即しており参考になった。実際に利用したいので、文字や語句を統一して欲しい。
- コンピュータやCADの実習授業が増え、作業としての実習授業が減少してきている。そのような実態の中で有効な施工実習を行なうために、委員会として講習会をどんどん実施して欲しい。
- 施工図の書き方、積算の進め方などの講習会を実施して欲しい。
- 施工やその他の建築教科書の内容が関東地方のものに片寄っている、寒い地方の建物に関係するものも掲載すべく関係者に要望したい。

最後に、当委員会に出席され熱心に聴いておられた、元会長の中江先生から次のようなご意見・ご感想をいただきました。

「木造建築として大切である、規矩術の基本を施工実習の授業で教えてもらいたい。

実際には、実習時間が少なくできないと思うが、教授の工夫をし、例えば先生が模型をつくり、組立てて見させることによって、生徒は理解し・感動する。」

以上、当研究協議会で出たご意見・要望を委員会に持ち帰り今後の検討課題とすることを約し、終了しました。

建築施工実習報告書 例

項目	実習38原寸図	作業	原寸図作業
氏名		組	
期日	平成 年 月 日 () 天候	気温	湿度
経典名			
実習目的		
使用資料・用具・材料 (参考図)		
実習作業	1. テープ合せについて a. テープ合せの目的を書きなさい。 b. テープ合せの方法を書きなさい。 2. 基準線の引き方について a. 基準線の図を描き、その順序を記入しなさい。(図2-159参照) b. 基準線の引き方で留意すべきことを書きなさい。		
	Y.		

3. 接合部の山形図とガセットプレートについて
 a. 次の図の①~④() ないに濃線を記入しなさい。

b. ガセットプレートの引き方で、留意すべきことを書きなさい。

4. 検査した箇所・方法・注意した点などを書きなさい。

感想 (箇条書きにしなさい。)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

換印

2. 今年度第2回の委員会開催を兼ね、7月21日～22日に次の施設見学を実施しました。会員の皆様の参考になれば幸甚と思い、その内容を報告します。

1) (学校法人・富嶽学園) 日本建築専門学校 静岡県富士宮市上井出大阪 2730 - 5

猛暑の折ではあったが、訪ねたこの学校は美しい富士山麓の大自然のなかにあり淋しさを感じた。杉浦事務局長・小堀先生の案内で施設を見学する。

日本伝統の木造建築工法を生かした家づくりのできる、大工・設計の技術者養成を目的としている。

広大な敷地のキャンパスは、管理棟・教室棟・実習棟・食堂・寮、そして諸設備などすべてが木材でできており、その環境は居ながらにして生きた木造建築の学習ができるすばらしさである。学生は高校卒業後4年間寮生活をしながら自由な雰囲気の中で24時間学習ができる。現在3年生までであるが、製図・実習の作品は優秀であり進度も早いと思われた。

広い実習棟では、経験あるプロの大工が数名おり、実際の注文住宅の作業をしている。学生はそこに入り、教えを受けながら、失敗の許されない木造実習を行なっている。墨つけ、機械の操作などその態度は真剣である。まさに、産学一体の授業風景に私達は感心すると同時に、専門性がうすれ・魅力が減少しつつある現在の職業高校に取り入れなければならないと思った。

2) (株式会社) ミツワ 清水支店プレカット工場 静岡県清水市長崎 1000

スミリン建設(株)は工期短縮、品質向上のため従来現場での調整に任されていた施工を、設計図面通り行なえる高精度な生産システムにしている。それは、マニュアル化された作業工程、大型コンピュータを用いたCAD、プレカット(工場機械加工)等の導入である。当社の紹介により(株)ミツワのプレカット工場を見学する。

設計事務所からの構造図を基に、継手・仕口・ホゾ等の加工用図面を作成し、CAD、CAMにより全自動プレカット機械で加工を工場生産する。その実態を見学し、これからの建設業界にとってプレカット加工は建築技能者や後継者不足を補うと同時に、品質管理や流通の単純化を図り、在来工法による木造住宅建築の合理化のために貢献が大であると思われた。

以上、見学の趣旨をご理解いただき、ご多忙にもかかわらず懇切に案内していただいた関係者に厚くお礼申し上げます。

10. 製図コンクール運営委員会報告

東京都立田無工業高等学校 赤地 龍馬

第7回（昭和63年度）製図コンクールには、会員校はもとより、会員校以外の諸先生方からもご協力を得まして、優秀な作品を多数応募いただき、ありがとうございました、厚くお礼申し上げます。

今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

なお、入賞者一覧表および、課題3の金賞作品は、住宅建築の専門月刊誌である「住宅建築」（資料研究社刊）の平成元年2月号に掲載されました。

1. 応募校数

66校（全日制 64校、定時制 2校）

東（会員校） 全日制 60校、定時制 2校

西（会員校外） 全日制 4校、定時制 0校

2. 応募作品数

	学校数・作品数		全日制・定時制の別			
			全	定	全	定
課題 1	東	62校 116点	全 60校 112点	定 2校 4点		
	西	4校 8点	全 4校 8点	定 0校 0点		
課題 2	東	43校 76点	全 42校 75点	定 1校 1点		
	西	3校 6点	全 3校 6点	定 0校 0点		
課題 3	東	31校 56点	全 30校 54点	定 1校 2点		
	西	3校 5点	全 3校 5点	定 0校 0点		
計	267点 (東 248点・西 19点)					

3. 課題別応募作品数・学校数

	1点	2点
課題 1	6校	59校
課題 2	10校	36校
課題 3	7校	27校

4. 都道府県別応募数・学校数

都道府県	会員 校数	課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	17 (5)	0	0	0	0	0	0
2 青 森	6	0	0	0	0	0	0
3 岩 手	4	3	6	3	5	0	0
4 宮 城	4 (1)	1	2	0	0	1	2
5 秋 田	5	0	0	0	0	0	0
6 山 形	7 (3)	0	0	0	0	1	2
7 福 島	7 (1)	1	2	0	0	0	0
8 栃 木	6 (1)	3	4	3	4	2	3
9 群 馬	8 (2)	5 (1)	10 (2)	4 (1)	5 (1)	4 (1)	7 (2)
10 埼 玉	6 (1)	4	8	2	3	1	2
11 茨 城	3	0	0	0	0	0	0
12 千 葉	4 (1)	3	6	2	4	2	4
13 東 京	14 (3)	9	17	7	13	5	9
14 神 奈 川	11 (4)	7 (1)	10 (2)	3	6	2	3
15 山 梨	4 (1)	3	5	3	6	3	5
16 新 潟	3	1	1	0	0	0	0
17 長 野	5 (1)	2	4	1	2	0	0
18 富 山	2	0	0	0	0	0	0
19 石 川	5 (1)	2	4	0	0	0	0
20 福 井	2	0	0	0	0	0	0
21 静 岡	9 (3)	5	10	1	2	1	1
22 愛 知	9 (1)	7	14	7	14	6	12
23 岐 阜	8 (1)	6	13	7	12	3	6
計	144	62	116	43	76	31	56
定 時 制	(30)	(2)	(4)	(1)	(1)	(1)	(2)
24 西 日 本	122	4	8	3	6	3	5
三重県・大阪府・兵庫県・徳島県							
合 計		66	124	46	82	34	61

() 内の数字は定時制

5. 入賞者一覧表

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金 賞	県立大船渡工業高等学校 菊地忠行	県立大船渡工業高等学校 板坂 茂	県立一宮工業高等学校 園部達也
銀 賞	県立豊橋工業高等学校 村上年生 県立半田工業高等学校 新美公克 私立関東第一高等学校 塩田 誠	県立豊橋工業高等学校 小林正寛 名古屋市立工芸高等学校 田中信一 県立半田工業高等学校 中濱裕貴	県立豊橋工業高等学校 鈴木智也 県立豊橋工業高等学校 名倉哲也
銅 賞	県立修善寺工業高等学校 渡邊龍二 私立東京工業高等学校 牧田士郎 県立郡山北工業高等学校 菅野晃史 私立関東第一高等学校 菅 英行 県立高崎工業高等学校 金井俊江 県立豊橋工業高等学校 小泉雅人 市立千葉経済高等学校 山本和由 県立天竜林業高等学校 大石貴史	県立高崎工業高等学校 田村信司 県立豊橋工業高等学校 太田徳政 都立田無工業高等学校 藤原孝幸 県立市川工業高等学校 松本宗隆 県立今市工業高等学校 植田 孝 県立津工業高等学校 木村行博 私立関東第一高等学校 山崎大助	都立田無工業高等学校 真保 実 県立一宮工業高等学校 杉本直樹 県立甲府工業高等学校 新田佳子 県立愛知工業高等学校 大野公人 県立高山工業高等学校 花岡公作 県立米沢工業高等学校 泉野日和明 県立市川工業高等学校 鈴木賢三
奨励賞	県立島田工業高等学校 小原 健 県立神奈川工業高等学校 定時制 加藤一策	県立前橋工業高等学校 定時制 南沢未来夫 府立今宮工業高等学校 松岡豊明	県立徳島工業高等学校 佐川正師 県立前橋工業高等学校 定時制 高山 亨

11. ニュース

1. 平成2年度は本会創立40周年となります。そこで平成2年度は「東日本建築教育研究会創立40周年記念神奈川大会 総会・研究協議会・式典」として箱根で7月25日(水)～7月26日(木)開催される予定です。
2. 本会創立40周年を記念して種々事業が計画され、着々その準備が会員の皆様の努力によって進められています。その一部を紹介致します。
 - 記念誌 会員校の紹介ページを設けました。各学校から原稿を頂戴して、記念座談会などとともに、担当委員会で編集中です。
 - 会員名簿 6月末発行予定です。3月中頃名簿の原稿依頼が届くことと思いますが、よろしく御協力のほどお願い致します。
 - 記念講演 記念式典において行なう。本部事務局で講演者人選中。

あ と が き

「建築教育ニュース」1989年号ができました。

今年は鶴岡工高の加藤先生に夏期講習会に参加された体験・感想をご寄稿いただきました。今後とも、各学校で研究や調査された資料・報告書など、あるいは随筆・批評なども是非ともご寄稿をしていただきたいと思います。

また、総会事務局、本部事務局、各分科会主査の先生方のご協力に感謝申し上げます。

編 集	編集委員会	池田（川崎工），遠藤（東京工）
		大間（関東第一高），中尾（葛西工），古賀（東工大附工）
発 行	東日本建築教育研究会（代表者 加曾利 政男）	
事務局	東京都新宿区富久町22-1	TEL 03-353-8468
	都立 小石川工業高等学校	（局長 松田 紘）

第1回木造住宅デザインコンクールにふるって参加を

先日(財)日本住宅・木材技術センター主催の第1回木造住宅デザインコンクールの案内とポスターが、各会員校に送られたことと思います。朝日新聞にも掲載されたこのコンクールについて本研究会にも9月に企画の話がありました。定例理事会で検討した結果「主旨・内容・時期についてこの企画に賛成である。生徒の学習意欲を高めるものをめざし細部については事務局が担当者と協議する」との決定を行いました。

11月7日(火)行われた細部の協議で話し合われた内容をお知らせします。

- ① コンクールの目的は、「木造住宅の長所と可能性を認識し、21世紀に向かつての設計提案を共に考え木造住宅の振興と、住文化の向上に寄与する」こと
- ② この課題は、高校生の授業進度との関係ではとり組みやすい内容であること
- ③ 公の機関が主催して開くコンクールは数が少く、継続して実施するので成果が期待できること
- ④ 表彰については、一般部門と高校生部門を分け高校生にふさわしい内容のものにすること。(例、建設大臣賞、審査委員長賞、奨励賞を含め、額は少くとも数多くしたり、記念品などもつけるなど)
- ⑤ 運営や審査について今後教育界(本研究会)からも参加すること
- ⑥ 本年度は初めての試みであるが100点程度の応募があれば高校部門を今回から独立させること
- ⑦ 表彰式は東京で行い、交通費は支給すること

以上です。建築教育ニュースの原稿に間に合わなかったので「事務局通信」としてお知らせ致します。お忙しい折ですが、ふるって参加されるよう御指導下さい。

参考

(財)日本住宅・木材技術センターは昭和52年に農林水産省と建設省の共管で設立され、木材の利用促進・木造住宅の振興に関する技術開発、調査、普及指導を主な事業とする試験研究法人です。